ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（派遣）
ダイバーシティマネジメント報告書

報告日：2020年3月2日

派遣者所属名	神戸大学大学院保健学研究科
派遣者氏名	小寺　さやか
調査対象機関名（派遣機関含む）	シャリテ・ベルリン医科大学・保健看護学研究科（Charité-Universitätsmedizin Berlin, Institute of Health and Nursing Science）

調査項目

①派遣先機関の女性役員の数・比率、部局別女性教授（相当職）の数・比率

	女性数	全体数	女性比率
学長	※	※	
役員	※	※	
教授（部局別）	1	2	50.0%
教員（部局別）	13	15	86.7%

②派遣先機関のジェンダー平等やダイバーシティに関する教育プログラムの実施状況について

特にドイツではジェンダー平等やダイバーシティへの配慮は当然のことであるため、特別な教育プログラムは行われていない。

③研究室運営におけるジェンダー配慮の状況等について

保健看護学研究科であるため、日本と同様に教員・大学院生共に女性の割合が高い。中でも子育て世代が多く（院生の中には子どもを連れて受講する者もいた）、女性トイレにはベビーベッドやオムツ替えに必要な物品が揃っており、環境面で日本との違いを感じた。男女問わず、定時に帰宅する（残業をしない）ルールが徹底的に実施されている。

④女性研究者の採用・昇任に有効と思われるプログラムについて

看護学分野は世界的に女性研究者が多い分野であるが、ライフイベントに関わらず研究継続できる環境整備（ハード・ソフト）と女性研究者のキャリアパスがわかるプログラムが有用と考える。

⑤本学のアンコンシャスバイアスを払拭するために有効と思われる制度等

より厳格な働き方改革が必要。男女問わず、ドイツのように全員が同じルール（就業時間数、有給取得30日等）の下で、効率的かつ効果的に働くことを推進していく必要があると考える。